

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073400469		
法人名	社会福祉法人 同朋会		
事業所名	グループホーム国分		
所在地	福岡県太宰府市幸都2丁目8-12 (電話) (092) 918-8288		
自己評価作成日	令和 2 年 8 月 24 日	評価結果確定日	令和 2 年 11 月 16 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者が今まで積み重ねてこられた「経験」に着目し、その人らしい生活できるよう支援していきます。また、ご家族との繋がりも大切にし、ご家族と共にご利用者を支援していけるよう努めております。

気候の良い時期は、バスハイクやドライブ、散歩など外出の機会を増やし、季節感を感じて頂けるように配慮いたしております。

当ホームでは終末期ケアは行っていませんが、同敷地内にケアハウスと老健。同法人には特養もあり、ご利用者の心身状態にあった療養環境のご提案を行っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 2 年 9 月 17 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、県道と高速道路に面する閑静な敷地内の鉄筋コンクリートの茶色の建物の3階と4階に位置する。同じ敷地内に、ケアハウスと介護老人保健施設が隣接している。秋祭りや研修を合同で開催する等、施設間の行き来する機会が多い。老健の専門職種から、リハビリ方法の助言をもらう等、老健施設併設のグループホームのメリットを活かしている。リビングは広々として明るく、職員・利用者ともに、笑顔があふれ、「その人らしさの生活」を支援している事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流の中で、その人らしい生活の支援」を事業所理念に掲げ、日々取り組みを行っている。また、スタッフ会議にて情報共有を行い、実践に繋げている。	地域密着型の視点を盛り込んだ事業所独自の理念がある。目につきやすい場所に事業所の理念を掲示しており、出勤時に内容確認をしている。理念の実践に向けて、日々声かけや介護に取り組んでいる。職員の面接時にも、理念の内容を説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	共用スペースを利用し、地域の小学生との交流。高校生との手紙のやりとり。そして、併設の老健施設と合同で、ボランティア団体との交流が定期的に行われている。同敷地内3施設で実施される秋祭りでは、ボランティアとして、地域の方々にご支援頂いている。	保育園との交流や、小学生の職場体験や福祉学習の受け入れをしている。社協の福祉祭りに参加し、貼り絵の出品をした。同一敷地内3施設合同の秋祭りには、地域住民の多数の参加があつている。本年度は、コロナの影響で、行事関係が中止となり、例年に比べて、交流の機会が少なくなっている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	太宰府市の福祉まつりへの参加やオレンジカフェでの講演、民生委員福祉部主催の勉強会での講演を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的（2カ月に1回）に開催しており、パワーポイントを使った事例検討会を毎回実施している。具体的な事例を通して、ご出席頂いている外部の方々との意見交換を行っている。	運営推進会議は2か月に1回開催していたが、コロナ感染対策で、現在は資料を関係者に配布して、意見をもらっている。利用者やサービスの状況、対応困難ケースの報告を行っている。会議で出た質問や意見を取り入れ、運営やサービスの質の向上に活かすようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご出席いただき、意見交換を行っている。また、当施設にて制度的な不明な点等がある場合には、随時連絡を取り、指示を頂いている。	日頃から市役所の窓口に行く機会が多い。電話や市役所窓口で、相談・報告を行っている。認知症カフェで、認知症についての講演を行う等、行政への働きかけをしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の老健と合同で身体拘束適正化委員会を月1回開催し、意見交換を行っている。また、半年に1回のペースで、全スタッフを対象に身体拘束に関する意識調査アンケートを行い、ケア内容を見直す機会を確保している。玄関は防犯の為、夜間のみ施錠している。	日中は居室・玄関は施錠していない。玄関には鈴をつけている。職員は、利用者の外出傾向を把握し、利用者の行動を制限しないようしながら、見守りや声かけを行っている。身体拘束のマニュアルは整備されており、職員は法人内の身体拘束の研修に参加しており、資料を回覧している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設老健と合同で行う委員会や勉強会への参加。また、身体拘束同様、半年に1回全スタッフへ虐待に関する意識調査アンケートを行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も「日常生活自立支援事業」を活用されているご入居者がおり、社会福祉協議会と連携している。また、必要に応じた相談や情報交換の中で学ぶ機会を持ち、いつでも支援できる体制は整っている。	権利擁護について、家族に必要時説明を行っている。権利擁護についての研修は、本年度はコロナの感染防止対策で未定だが、例年法人内の研修に参加して、全体会議で資料を閲覧している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書にて説明を行い、ご質問に対しては「例え」を用いてご理解・ご納得いただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時に近況報告を兼ねて会話の場を設け、ご意見や要望を伺えるよう努めている。また、1Fのエレベーター前に匿名でもご記入いただけるご意見箱を設置することでご意見が頂きやすい環境を作り、ケアの質向上に努めている。	日頃の関りの中で利用者の要望や思いを引き出すようにしている。利用者の希望に応じた、食事を用意したり、昼食のメニューと一緒に考える等工夫している。家族とは、面会制限の兼ね合いで、電話で状況報告をして、要望や意見を確認している。新型コロナの感染対策について、質問が出た際は、管理者から説明を行う等、家族の意見を汲み取り運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営責任者による職員面談を定期及び随時行われており、職員の意見や提案の反映に繋げている。	全体会議で管理者が個別に声かけを行い、職員の意見を聴くようにしている。職員から出た意見を取り入れ、ケアの方法や服薬マニュアル、勤務内容の時間配分の見直しを行っている。新人職員には、指導職員をつけるようにしている。管理者は職場環境を整え、働きやすい職場づくりを心がけている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談時に各職員の近況を確認し、改善を要すると判断した場合には、早急に改善に向けて調整を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢による排除は行っていない。個々のキャリアやキャラクターを活かし、自信をもって業務に当たってもらえるよう努めている。	職員の採用選考では、性別・年齢・経験の有無を問わずに行っている。定年はあるが、希望があれば、雇用体系は変わるが、就労してもらっている。資格取得の希望があれば、研修の参加等勤務表の配慮を行っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全体会議や事例検討会等を通して、ご入居者の権利について考える機会を設けている。	本年度はコロナ感染対応のため、研修日時は未定だが、例年法人内の人権研修に、職員は参加しており、資料は回覧している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や近隣で行われる外部研修には積極的に参加している。また、新入時には教育担当者を付け、互いにスキルが向上出来るよう努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	Fukuoka医療・介護ネットワークや福祉まつり、市役所主催の交流会に参加し、交流している。また、同法人内でグループホームが3施設あり、交流は深い。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や住環境を基に、ご本人のお話を伺いながら、安心できる感情を整えていけるよう心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時のアセスメントの段階で、ご家族の要望や心配と思われる点を伺い、今後のご家族へのサポートに繋げている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族との面談の中で、ニーズを明確にし、支援内容の提案に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を通して、一人一人と丁寧に寄りながら、食事や生活に係る作業を一緒に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報を共有し、ご家族だから出来る支援もあることをご理解いただけるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にお連れしたり、ご友人・ご親類との交流も積極的に受け入れ、社会関係や人間関係の継続に努めている。	利用者の馴染みの人や場所について、家族や利用者から情報を得ている。病院受診時に、自宅に立ち寄ったり、家族の協力を得て、行きつけの美容室や教会に行く等、地域との関係が継続できるようにしている。ケアハウスや老健の知り合いに訪問してもらったり、電話での連絡を取り持つ等、なじみの関係が途切れないように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通じ、ご利用者同士のコミュニケーションの間に入ったり、共同作業にも参加いただくことで、関係構築に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の状況もネットワークを通じて状況確認を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴等を基に、ご本人の希望や思いを全職員が把握し、ご本人を中心とした話し合いに取り組んでいる。	本人や家族の生活への思いは、ケアプランの第一表に記されている。入所後、利用者や家族と交流する中で知り得た新たな気付きは、「申し送りノート」を介して、職員間で共有している。日々の会話を大切に、経過記録に残しており、利用者の具体的な事柄についての記録として生かされている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や以前関わりのあった介護事業所等からの情報を収集し、経過等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメント及びモニタリング・評価を行いながら、現状把握及び情報共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の現状及び生活歴を基に、ケアカンファレンスや担当者会議を行い、ご家族の思いや希望も取り込んだケアプランの作成に努めている。	利用者それぞれに担当職員が割り振られており、担当利用者や家族についての気付きをケアマネジャーに伝えている。ケアマネジャーは、主治医の意見や経過記録、モニタリングにより、ケアプランの実施状況やケアプランの成果を評価している。その中で、今後ケアプランで取り組むべきことが整理されてき、次のケアプラン作成に活かされている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいたサービス記録、いつもと違う様子や変化を観察し、個別記録に記載し情報共有を行っている。また、その記録がケアプラン作成に活かせるよう記録に努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	過去に例があるかどうかではなく、今のご利用者に有効か否かを重視しながら、サービス提供を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学校との交流や福祉まつりでの作品の展示など、「やりがい」を感じていただけるような支援も取り組んでいる。また、移動理美容を活用し、リフレッシュできる機会も作れるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多少の変化に対しても主治医への連絡や受診を行うなどの連携を取りながら最適な医療を確保している。	利用者個別の要観察情報が整理されており、そこに示されている情報に基づき、対応している。職員による対応の差は起こりにくい。天候や諸事情により、家族による受診が難しい場合は、職員が対応している。家族によって受診先で待ち合わせるなどして支援している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが、併設老健の看護師長を中心に、いつでも相談できる体制を整えている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃からかかりつけ病院との連絡は取り合っており、情報交換を行っている。また、主治医から紹介された他の病院であっても、ソーシャルワーカーとの情報交換は随時行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた方針は事業所で定めているが、主治医を意見も含めて対応している。また、法人内の各施設相談部会を開催しており、特養や老健との連携も強い。	介護・看護面での利用者の重度化に対して法人内老健の設備利用や老健からの人的支援が得られる環境にある。利用者全員について「救急車搬送依頼書」が整備されており、搬送先医療機関への情報提供が支障なく行われている。看取りマニュアルに添ったケアが家族の協力を得て行われている。希望があれば、家族も宿泊出来る。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアルを作成しており、併設老健と合同で、救急外来の医師による研修に参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出火想定場所を変えながら、避難訓練を年2回実施し、消防隊による消防訓練を受けている。地域との協力体制の構築までは至っていない。非常用備蓄は1階の倉庫に敷地内3施設共用で備蓄している。	火災・水害・地震など災害に応じた避難計画が策定され、避難訓練が行われている。夜間の緊急時には、法人内他事業所から応援を求めめるのではなく、自施設職員を呼び出す仕組みとなっている。災害に備えた備蓄品は、食料品類と日用品類とに分けて、当グループホームと法人内他事業所で保管している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的な身体拘束適正化や虐待に関する職員の意識アンケートにより、個々がケア内容を見直し、ご利用者の人権やプライバシー確保を徹底しながら日々対応している。また、接遇委員会への参加を通じ、丁寧な対応に心掛けている。	利用者への尊重があってこそそのプライバシー確保という視点から、半年ごとに職員に対しアンケート調査を行っている。職員はアンケートを通して、自身の対人援助の意識や理解についてその都度見直すことができる。居室ドアの窓はすりガラスのため、外から中の様子は知られない。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を確認し、自己決定及び自立支援を行っている。意思疎通が困難なご利用者には、好みを事前に把握し、表情等で読み取れるよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、ご利用者個々の意思に寄り添った対応で過ごしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや季節に合わせて個別に支援している。また、訪問理美容を利用している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備作業をご利用者にもお手伝いいただき、片付けも一方的ではなく、声掛けしながらお手伝い頂いている。	ごはん茶碗と箸は私物を使用している。朝・夕食は法人厨房で調理されたものが配膳されている。昼食についてはホームで調理しており、利用者の希望に応じて献立を立てている。また、味付けについても要望があれば応じている。食事の準備や片付けなど、利用者ができることは一緒に行っている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量を把握し、毎月体重測定を行っている。また、ご利用者の様子を見ながら、こまめな水分摂取の声掛けも行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛け、個々に合わせたケアを行い、口腔内清潔保持に努めている。また、夜間は義歯をお預かりし、週2回除菌している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、状況把握に努めている。また、適時にトイレ誘導を行い、気持ちよくトイレで排泄が出来るよう支援している。	排泄チェックは全員に対して行っている。トイレは共有スペースから目に入らない場所に設けられているため、利用者は周囲に知られることなくトイレを利用することができる。法人内老健リハビリスタッフの指導と訓練を受けることで、トイレへの移動や排泄動作が安全に行える。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に気を配り、食事やおやつに食物繊維が豊富な食材や牛乳やヨーグルトを取り入れ、適度な運動を実施しながら便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に2~3回、ご本人の意思を尊重しながら支援を行っている。また、入浴剤を使用するなど、楽しんでいただけるよう支援している。	利用者が週3回は入浴できるように、お風呂は毎日用意している。入浴剤で雰囲気を変えたり、浴室に音楽を流したりして入浴が楽しくなるよう工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調等に合わせ、ご利用者の希望を伺いながら休息の時間を設けている。また、日中の活動量を確保し、昼夜逆転にならないよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を受け取った日に薬事録をの照らし合わせを行い、薬事録はカルテに保管。いつでも見れる状態にしている。また、服薬介助時にダブルチェックを行い、誤薬防止に努めている。服薬による変化が大きい場合には主治医に連絡し、指示を仰いでいる。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のご性格や生活歴を参考にし、趣味活動や家事へのお声掛けを行っている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に買い物に出かけたり、誕生日などで希望する食事を外へ食べに行ったりと、ご利用者の希望に沿った支援を行っている。	コロナ禍以前のことになるが、週に2度ほどは散歩していた。散歩に出ることで落ち着きを見せる利用者についてはほぼ毎日散歩に出ている。家族の協力を得て、誕生日には外出したり、受診後に買い物や食事をする利用者もあつた。大きな法人行事に利用者が参加する際の移動支援には地域のボランティアの応援を得ている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に外出した際、ご利用者の状態に合わせて、お支払いの援助を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等から頂いたお電話は全ておつなぎしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内を季節に合わせて飾り付けをし、四季を感じていただけるよう工夫している。また、ご本人の状況に合わせた環境整備に努め、居心地の良い空間を心掛けている。	エレベーターを出てからフロア玄関までが広く、また、玄関が格子戸でフロア内の様子が窺えるので、ゆったりとした気分で玄関に入っていくことができる。共用空間は食堂、くつろぎのスペース、和室と3つに分かれているが、仕切りがないため広々と感じる。両端がベランダになっているため採光・換気は申し分ない。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の食席を設け、不定期ではあるが席替えを行っている。リビングルームはお好きな席で過ごしていただいている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を使用され、ご家族の写真やお好みの物を飾り、ご本人が落ち着いて過ごせるよう工夫している。	居室には介護用品であることを感じさせない家具調のベッドが用意されている。居室の床には50cm四方の柔らかなマットが敷き詰められている。転倒事故を防ぎ、清掃もし易い。ベランダに面しては掃き出しのガラス戸になっているため、室内はとても明るい。収納部分もたっぷりあるため、持ち込み品の選択で苦勞することは少ないと思われる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室扉にはお名前、トイレや浴室への方向に矢印を使った案内を掲示している。また、居室内のタンスには分類別にテープを貼り、ご自分で収納できるよう支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流の中で、その人らしい生活の支援」を事業所理念に掲げ、日々取り組みを行っている。また、スタッフ会議にて情報共有を行い、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	共用スペースを利用し、地域の小学生との交流。高校生との手紙のやりとり。そして、併設の老健施設と合同で、ボランティア団体との交流が定期的に行われている。同敷地内3施設で実施される秋祭りでは、ボランティアとして、地域の方々にご支援頂いている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	太宰府市の福祉まつりへの参加やオレンジカフェでの講演、民生委員福祉部主催の勉強会での講演を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2カ月に1回)に開催しており、パワーポイントを使った事例検討会を毎回実施している。具体的な事例を通して、ご出席頂いている外部の方々との意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にご出席いただき、意見交換を行っている。また、当施設にて制度的な不明な点等がある場合には、随時連絡を取り、指示を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の老健と合同で身体拘束適正化委員会を月1回開催し、意見交換を行っている。また、半年に1回のペースで、全スタッフを対象に身体拘束に関する意識調査アンケートを行い、ケア内容を見直す機会を保っている。玄関は防犯の為、夜間のみ施錠している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	併設老健と合同で行う委員会や勉強会への参加。また、身体拘束同様、半年に1回全スタッフへ虐待に関する意識調査アンケートを行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も「日常生活自立支援事業」を活用されているご入居者がおり、社会福祉協議会と連携している。また、必要に応じた相談や情報交換の中で学ぶ機会を持ち、いつでも支援できる体制は整っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書にて説明を行い、ご質問に対しては「例え」を用いてご理解・ご納得いただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時に近況報告を兼ねて会話の場を設け、ご意見や要望を伺えるよう努めている。また、1Fのエレベーター前に匿名でもご記入いただけるご意見箱を設置することでご意見が頂きやすい環境を作り、ケアの質向上に努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営責任者による職員面談を定期及び随時行われており、職員の意見や提案の反映に繋げている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談時に各職員の近況を確認し、改善を要すると判断した場合には、早急に改善に向けて調整を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢による排除は行っていない。個々のキャリアやキャラクターを活かし、自信をもって業務に当たってもらえるよう努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全体会議や事例検討会等を通して、ご入居者の権利について考える機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や近隣で行われる外部研修には積極的に参加している。また、新入時には教育担当者を付け、互いにスキルが向上出来るよう努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	Fukuoka医療・介護ネットワークや福祉まつり、市役所主催の交流会に参加し、交流している。また、同法人内でグループホームが3施設あり、交流は深い。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の生活環境や生活歴を基に、コミュニケーションを図りながら信頼関係を築き、ご本人が安心出来るよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時のアセスメントの段階で、ご家族の心配事などを聞き取り、ご家族へのサポートも含めたケアを行っている。また、日頃からご家族に声掛けを行い、コミュニケーションを図りながら、良好な関係作りに努めている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の話を丁寧に聴き、必要としている支援内容の見極めを行っている。また、当ホームのご利用に繋がらなくても、その方にあった支援のアドバイスを行い、他事業所とも連携を図りながら支援に取り組んでいる。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般をご利用者と共に行い、今まで培ってこられたことを教えて頂きながら、共感共生に基づいて生活が出来るよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活を通じて関わり合いを持ち、ご利用者の状態の変化があった場合にも、報告を密に行い、その方にあった支援内容を一緒に考えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の居住地や馴染みの場所へお連れしたり、ご友人を招待するなど、関係の維持に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通じて関わり合いを持ち、ご利用者の状態・状況に応じて支え合えるような支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方に、連絡や時には面会をし、関係の継続に努めている。退所者のご家族とも行事への参加などを通じて交流が続いており、その後の経過について相談や支援の関係維持に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴等を基に、ご本人の希望や思いを全職員が把握し、ご本人を中心とした話し合いに取り組んでいる。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や以前関わりのあった介護事業所等からの情報を収集し、経過等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメント及びモニタリング・評価を行いながら、現状把握及び情報共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の現状及び生活歴を基に、ケアカンファレンスや担当者会議を行い、ご家族の思いや希望も取り込んだケアプランの作成に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいたサービス記録、いつもと違う様子や変化を観察し、個別記録に記載し情報共有を行っている。また、その記録がケアプラン作成に活かせるよう記録に努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	過去に例があるかどうかではなく、今のご利用者に有効か否かを重視しながら、サービス提供を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学校との交流や福祉まつりでの作品の展示など、「やりがい」を感じていただけるような支援も取り組んでいる。また、移動理美容を活用し、リフレッシュできる機会も作れるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多少の変化に対しても主治医への連絡や受診を行うなどの連携を取りながら最適な医療を確保している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが、併設老健の看護師長を中心に、いつでも相談できる体制を整えている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃からかかりつけ病院との連絡は取り合っており、情報交換を行っている。また、主治医から紹介された他の病院であっても、ソーシャルワーカーとの情報交換は随時行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた方針は事業所で定めているが、主治医を意見も含めて対応している。また、法人内の各施設相談部会を開催しており、特養や老健との連携も強い。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアルを作成しており、併設老健と合同で、救急外来の医師による研修に参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出火想定場所を変えながら、避難訓練を年2回実施し、消防隊による消防訓練を受けている。地域との協力体制の構築までは至っていない。非常用備蓄は1階の倉庫に敷地内3施設共用で備蓄している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的な身体拘束適正化や虐待に関する職員の意識アンケートにより、個々がケア内容を見直し、ご利用者の人権やプライバシー確保を徹底しながら日々対応している。また、接遇委員会への参加を通じ、丁寧な対応に心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションで新rファイ関係を築き、ご本人の意思を確認しながら自己決定・自立支援を行っている。表出が困難な方には、ご本人が理解しやすい形での確認の仕方を工夫している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、日々の体調を考慮し、また、個人の意思に添った対応をベースに行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際におしゃれ着を一緒に選ぶなど、おしゃれを楽しめるよう支援している。また、ご家族にご協力いただき、季節に合わせた服装ができるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食の献立を一緒に考えたり、配膳・下膳・片付け等、ご利用者が出来るお手伝いをお願いしている。役割を担いながら楽しんでいただけるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記入を行い、体重の増減に気を付けながら栄養管理を行っている。自由に水分摂取出来るようにしているが、提供時間を設け、こまめに水分補給ができるよう努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア（うがい）等を徹底し、口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、その方の状態に応じた排泄支援・排便コントロールを行っている。失禁があった場合は、清拭や洗浄などで清潔保持を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事栄養を吸収しやすいようにその方に合った食事形態での提供を行っている。また、日課として運動を取り入れ便秘予防に努めているが、排便コントロールが困難な場合には、主治医に相談し、下剤を処方いただいている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人の意思を確認しながら週2~3回入浴を提供している。ご本人の気分やタイミング合わせた提供を心掛け、翌日に持ち越すなどの対応も行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調等に合わせ、ご利用者の希望を伺いながら休息の時間を設けている。夜間は安心して気持ちよく眠れるよう、空調管理や衣類の選択を行っている。日中はアクティビティ活動への参加を促し、昼夜逆転とならないよう取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないようダブルチェックを実施しながら服薬支援を行っている。また、ご利用者の様子を日々観察し、変化に気を付け、必要に応じて主治医へ相談している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好や生活歴を考慮し、支援を行っている。時には希望の夕食等にも出かけている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に買い物に出かけたり、誕生日で希望する食事を外へ食べに行ったりと、ご利用者の希望に沿った支援を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に外出した際、ご利用者の状態に合わせて、お支払いの援助を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備担当者を中心に、リラックスして安心して過ごせる空間づくりに努め、常に整理整頓を心掛けている。また、季節に応じた飾り物等の展示し、季節感を取り入れる工夫もしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やリビング等思い思いの場所でくつろぎ生活して頂けるよう、心地いい場所作りに取り組んでいる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時にご本人の思い出の品や使い慣れた物等をご持参いただき、安心かつ安全に過ごせるよう工夫している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷われないよう、トイレや浴室への方向に矢印を使った案内を掲示している。。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
			○	④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が		
			○	② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		